

会 議 記 録

日 時	令和 8 年 7 月 30 日（木） 10 時 00 分～11 時 30 分
場 所	宇陀市こども家庭センター すくすくルーム
会 議 名	第 26 回子ども・子育て会議
出 席 者	委員出席 17 名 欠席 3 名
事 務 局 等	小林健康福祉部長 教育総務課：山口主幹 こども未来課：山本課長・吉田主幹・福本・和田

会 議 内 容

1. 開 会

2. 部長あいさつ

3. 議事

説明事項 「こども計画策定のためのアンケート調査」について

報告事項 「ワークショップ、プレこども会議」実施報告

質疑

Q1. ワークショップ開催にあたり、ワークショップデザイナー*を置いたか。市内ではそういった専門家がいるため、活用していただければ。

* 場づくりの専門家。参加者が安心して意見を言える環境をととのえ、参加者間の対話を促し、活動をスムーズに導く。

A1. 今回は実績のある市職員（保健師）がファシリテーターとしてグループワークの進行役を務めた。他市町村のワークショップを参考に、業務支援業者と相談しながらデザインに取り組み、実際のワークショップでは、参加者が自身の意見をしっかりと話してくれた印象。今回の内容については、計画に反映できるよう努めて参ります。

意見

委員 これまでは大人中心の社会であったが、今後はこどもを真ん中に据えて、こども施策を考えていく必要がある。そのためにこどもの意見、保護者（子育て当事者）の意見を聴くことは非常に大事なことです。アンケートの質問は、誰かの回答をまとめたようなものではなく、こどもの内面を引っ張り出すような内容で、実態を把握してもらいたい。自由記述を増やすなどの工夫を。

ワークショップの回答を見ても、「バスの本数を増やしてほしい」などの意見が出ていない。こじんまりとした回答になっている印象。枠にはめすぎているのでは。

協議事項「生活実態調査(児童生徒用)(保護者用)(若者用)」について

質疑

Q1. 宇陀市がどんなまちづくりをしたいのか。市の考えを示してからがスタートではないか。そして、こどもの意見を聴く。自由記述の設問ではなく、具体的な施策を選択肢に入れ、こどもに意見を聴いてはどうか。

A1. 自由記述の回答は、アンケート回収後にどんな意見があるかといったことを注視するところである。一方、市の考えをアンケートに示すことについては、つい行政的な考えで、実現性を値踏みしてしまうことがあり、控えているように感じられたかと思う。アンケート回答から得られたこども・若者の施策に対する意見については、各分野ごとに共有・連携して意見反映できるよう努めます。

A2. アンケートの修正箇所について、どういったところを見直しているか。

Q2. 前回会議において、設問がわかりにくい、子どもが取り組みやすいように改善する必要性があると指摘があった。子どもの発達段階などにばらつきがあることを鑑み、設問内容を理解しやすくするために文章表現を変えることや、説明文を加えた。自由記述の回答になると、すべての子どもが回答を思い浮かべられるか、難しいこともあるため、いくつか回答項目を用意し、その他欄にて、自由記述してもらえよう意図して作成した。

Q3. 「アンケート調査のねらい」として、中学校卒業後の居場所づくりの事業を検討するとあるが、そういう事例が増えている傾向があるのか。

A3. 中学校卒業後の進路はほとんどが進学。しかし、高校進学後に中退してしまうケースはよく聞かれる。奈良県の高校中退率はR3年度で1.9%(全国平均1.2%)、R4年度で2.1%(全国平均1.4%)、R5年度で2.3%(全国平均1.5%)と全国平均を大きく上回っています。中学卒業後の居場所を作ることで、社会とのつながりを持ち、そのままひきこもることがないよう早い段階で対処することが、8050問題などの将来の課題を防いでいくことにも繋がります。

*** 主な中退理由**

学校生活・学業不適応

*** 学年別**

1年生での中途退学が最も多い

*** 過程別の傾向**

全日制に比べ、定時制や通信制過程で中退率が高くなる傾向

※不登校児童生徒数についても、奈良県・全国ともに増加傾向。

奈良県教育委員会「児童生徒の問題行動・不登校等 生徒指導上の諸課題に関する調査」

Q4. 中学卒業後の居場所づくりについて。宇陀市では、「自主夜間中学」という素晴らしい取組がある。以前は、大人の学び直し支援というものであったが、現在は学校に行きづらい子や、諸事情があって教育を十分に受けることができなかった人などの居場所となっている。アンケートを学校で行う場合、そういった実際の当事者の意見を拾い、反映することができないのでは。不登校の子などを対象に、ワークショップを開くことや意見聴取に出向くなどの対応が必要ではないか。

A4. 調査方法やワークショップでの意見聴取について、検討します。

Q5. 施策として取り組んでもらいたいことを問う自由記述の設問について、他市町村の事例などでWEB 回答では一気に回答率が下がるということもあった。必須項目にしてはどうか。

A5. 入力フォームの仕様では可能。「答えたくない内容には答えなくてもよい」というスタンスの調査であるため、設問方法を変え、市の施策の中で取り組んでもらいたいものを選択する設問を新たに追加し、また、自由記述の設問も残す形としたい。

会長 今回は、計画の策定目的、アンケート調査のねらいについて、ご確認いただけた。また、こども・若者支援のネットワークづくりを念頭に、検討している事業に関わる質問項目を加えていることもご確認いただいた。今回の会議を踏まえたアンケート調査の修正については、夏休み明けの調査までに、委員へ最終確認として返していただきます。調査後は、委員からいただいたご意見を協議事項として継続して検討していきたい。

第 27 回子ども・子育て会議の予定

日程：令和 8 年 11 月

内容：アンケート結果の報告